

あおり教育フェスタの
発表内容の一部につい
て、紹介していきます！



こんな研究しています！

文責 研究委員会委員長 木村 浩

あおり教育フェスタ2018

研究員研究発表のご案内 日時：11月16日（金）
※詳細につきましては、フェスタ最終案内または当セン
ターホームページをご覧ください。

特別支援教育課 研究員 木村 宗太郎



「読み」につまずきのある児童に対する指導や支援の充実を図るための方策
～多層指導モデル(MIM)のスムーズな導入と継続的な実施の有効な方法について～

通常の学級では、学年を問わず、「読み」につまずきのある児童が在籍してい
る可能性があります。しかし、行動面の問題に比べて先生方が気づきにくく、早
期からの支援がされにくいという傾向があります。早い段階で支援をしていかな
ければ、生涯にわたってつまずきを持ち続ける可能性があるという報告もありま
す。このことから「読み」のつまずきを小学校段階の早期に見つけ、支援して
いく必要があります。



多層指導モデル(MIM)とは・・・

アセスメントと指導を結びつけながら、多様なニーズのある子どもに対して、「正確で素早
い読み、流暢性のある読み」の実現を支える指導モデルです。

＜想定される課題＞

効果的な指導
の在り方

効果的なアセ
スメント活用

児童への
心理的配慮

サポート体制

↓ 整理・分析

多層指導モデル(MIM) 導入・継続の実現へ

MIM を学校現場で導入し、
継続的に実施していくため
には、左記の4つの点が課題
になる事が文献研究を進め
る中で見えてきました。

フェスタでは、これらの課
題の解決方法を探り、研究協
力校の実状に応じたプラン
を発表します。



研究主題

教師が保護者対応における 自己効力感を高める研究

—中学校における研修メソッドの開発と実践を通して—



主題設定の理由

中学校教師の **54.6%**
「保護者や地域住民への対応
について悩みや不満がある」

保護者対応に**自信がない**、
前向きになれない教師

保護者対応に必要なこと

- ・学校・教師側からの積極的なアプローチ
- ・教師間の良好な関係性

保護者対応とは… 直接（電話・面談等）および間接（通信・生徒を通しての連絡等）の、教師と保護者のすべての交流場面
自己効力感とは… ある状況において、ある結果を達成するために必要な行動を自分がうまくできるかどうかの予期

「保護者対応自己効力感」が高まると…

- 例 「今日は電話ではなく、家庭訪問をしてみようか…」
「お母さんの話をじっくり時間をかけて聞いてみようか…」
「学級通信をもう少し工夫してみようか…」

研修メソッドの開発・実践

目的①「代理的体験」

保護者対応事例に関する意見交換を通して、「このような保護者対応をしてみたい」というモデルを見つける

目的②「言語的説得」

お互いを認め合う活動を通して、同僚からポジティブなフィードバックを受ける

ロング研修

- ・傾聴技法の体験
- ・保護者対応事例映像についてのディスカッション
- ・「やってよかった！行ってよかった！三者面談のためのひと工夫」
- ・グループワークトレーニング

回覧板研修

- ・「通学リュックが重い！」という訴えへの対応
- ・「帰りが遅い！」という苦情への対応
- ・「子どもが勉強の仕方がわからないと言っている！」という相談への対応

研修の振り返り

まとめ通信を発行し、ロング研修・回覧板研修での事例・意見や感想を共有

研修メソッド実施後の先生方の感想

- ・保護者対応について同僚と話し合う機会はないので、いろいろな意見を聞くことができてよかった。
- ・自分がこれまでやってきたことの確認もできたので、やる気が向上した。
- ・普段は少し言葉を交わすくらい同僚とも、自然に話し合いをして、関わることができた。

内容の詳細は、あおもり教育フェスタ 2018でお伝えします！

あおもり教育フェスタ2018

平成30年11月16日(金)・17日(土)

KonKen 作成担当 産業教育課 石田 尚将 電話 017(764)1994

Center Information
Aomori Prefectural School Education Center